

---

# 葵のだらだら日記。

はしくれ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

葵のだらだら日記。

### 【Nコード】

N6730A

### 【作者名】

はしくれ

### 【あらすじ】

どこにでもいる平凡な小学五年生『橘葵<sup>たちばなあおい</sup>』の生活を綴った物語です。

## 第1話・俺が生徒会ッ！？ - (前書き)

ホントーにだらだら書いていくので、皆サンもだらだら読んでくだ  
さい。 (――\*)。

## 第1話・俺が生徒会ッ!？ -

突き抜けるような青空が広がる、雲なんてまるで見えない、ただひたすら続く青い空。

俺の名前は橘葵<sup>たちはなあおい</sup>。花の小学5年生にして男盛りの10歳。

「オイ、葵?」

「何ボーツとしてんだよ。」

隣でうつとーしく話しかけてくるコイツは秋山遼<sup>あきやまりょう</sup>。家が近所でいつも一緒に遊んでる幼なじみってヤツだ。

「何だよ。」

「お前俺の話し聞いてたのかよ。」

「何が?」

「ハア、コレだよ。」俺の反応に遼は思わずため息を漏らす。

「なア遼。俺達は誰でドコへ向かってるんだろ。何故こんなにも急がなきゃならないんだ?」

「俺達は葵と遼でこれから学校へ向かう。何故急ぐのかというと、早くしないと遅刻しちゃうからだよ!」

そう言つて遼は走り出す。

「雲はあんなにもゆっくりなのになア。」

そうボヤくと俺も走り出し遼を追いかけた。

学校に着くと顔馴染みのクラスメイト達が出迎えた。

「よう。」元気のいいスポーツ少年有馬久志<sup>ありまひさし</sup>。

「おはよ、葵。」

仲のいい女子の河合路奈<sup>かわいみちな</sup>。

「アンタにしちゃ来るの早いじゃない。」

路奈の双子の妹、路香<sup>みちか</sup>。

「葵、オメエ今日は早エんだか。」

方言がやや訛り気味の山本吉光。やまとよしみつ

「おはようございます。葵クン。」

爽やか少年の中村烈。なかもれつ 皆俺のクラスメートであり仲のいい友達だ。

「オス！みんなオハヨーさん。」

俺は元気よく皆に挨拶した。「なア葵、知ってるか？今期から俺らの学年から生徒会執行部役員を選出しなきゃいけないんだとよ。」  
神妙な面もちで久志が言ってきた。

「あん、ソレがどーかしたのかよ。どうせ後藤あたりが立候補すんだろ。」

後藤とは俺の同級生で、いつも学級委員をやりたがるヤツだ。というか、俺は後藤以外のヤツが学級委員をやるのを見た事がない。

「バツカ、オメー何も知らねエんだな。学級委員と生徒会は両立出来ねエんだよ。」

そういえばそんな決まりがあつた。学級委員は級長であり、生徒会の下に位置する役割の為、同じ人間が両立は出来ないとか何とか。  
「って事は何か、まだ委員や係に就いてないヤツの中から生徒会役員を決めんのか？」

「そうですよ。そして現時点でまだ何の係にも就いていないのは葵クン、キミだけですよ。」

ニツコリと微笑みながら烈が言った。

固まる俺。

「久志、お前何係だっけ？」

「俺？俺は体育委員兼体育係だよ。」

「じゃあ遠、オメーは？」

「給食係。」

何だよソレ!?

「ヨシ、俺と代われ!」

「バカ、ヤダよそんなんよ。」

「じゃあ吉光!」

「オラも無理づら。清掃委員だモン。」

清掃委員は俺もゴメンだ。普段掃除の時間にサボる俺が他の皆の掃除の見回りや呼びかけなんぞ務まるわけがない。

「じゃあやつぱり、俺が・・・生徒会執行部。」

ようやく現在の状況に理解した俺は力無くうなだれた

「頑張れよ、葵!」

「お前なら出来るさ。」

口では励ます皆だがその瞳は同情の色を隠せないでいた。

生徒会執行部。

およそ今までの俺とはかけ離れ、そしてこれから先も関わる事はないであろう場所に、俺は足を踏み込もうとしていた。

「たはは・・・・・・・・。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6730a/>

---

葵のだらだら日記。

2010年10月15日23時54分発行